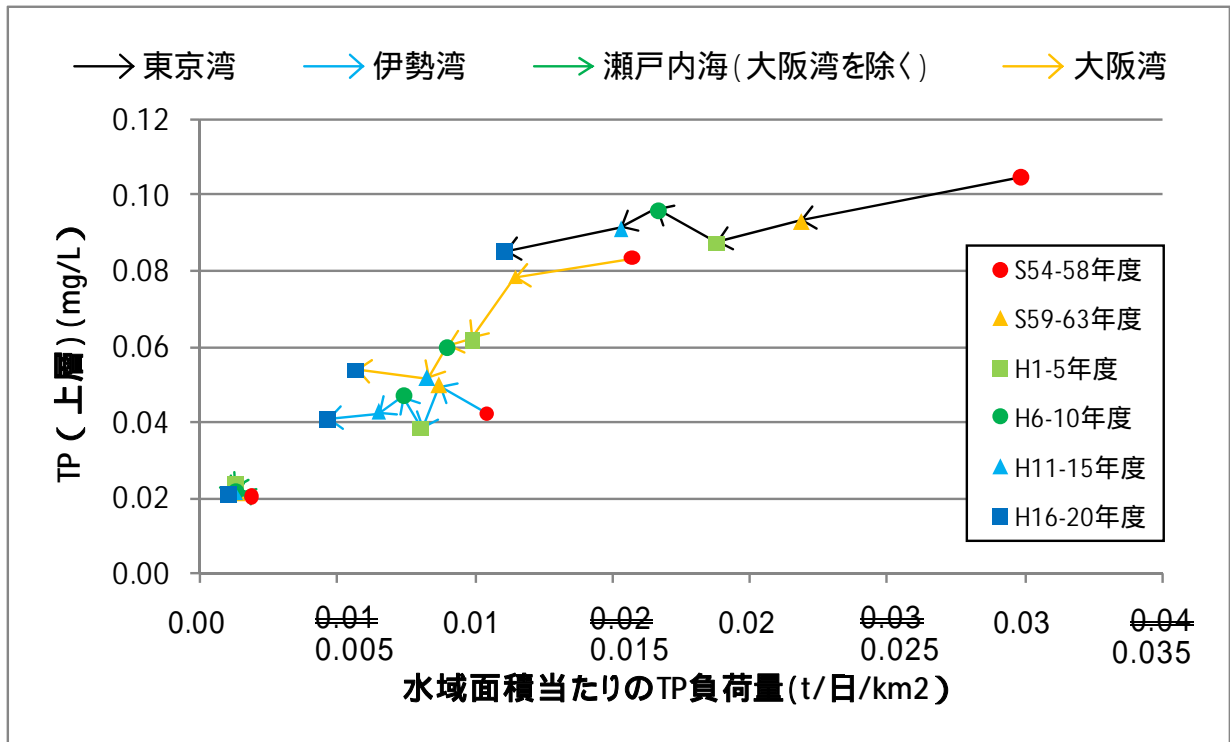


## 第 2 回専門委員会における指摘事項

1. 第 2 回委員会資料図 6-5「水域面積あたりの発生負荷量とりん濃度の推移」及び図 6-6(2)「水域面積あたりの発生負荷量とりん濃度の推移(瀬戸内海・湾灘別)」の差し替え

横軸の数値について、小数点以下 3 桁の数字が四捨五入になっていたもの。

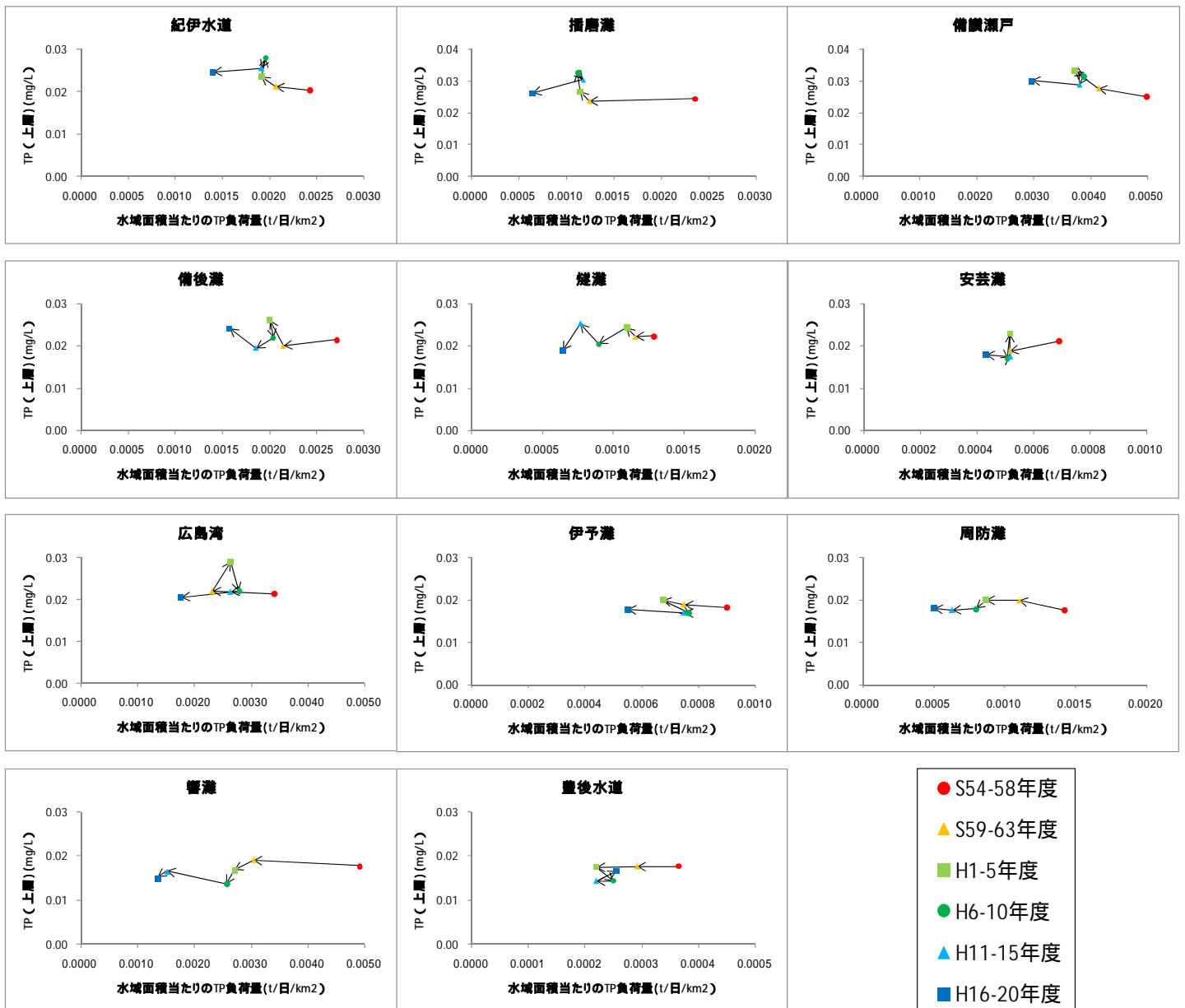


注) 発生負荷量については第 1 次～第 6 次総量規制開始年度の値を、水質については各総量規制期間中の平均水質を用いた(りんについては、第 5 次総量規制より規制項目に追加)。

図 6-1 水域面積あたりの発生負荷量とりん濃度の推移

## 2. 第2回委員会資料図 6-6(2)「水域面積あたりの発生負荷量とりん濃度の推移(瀬戸内海・湾灘別)」の差し替え

誤って図 6-4(2)の「水域面積あたりの発生負荷量と窒素濃度の推移(瀬戸内海・湾灘別)」を掲載してしまっていたもの。



注 1) 発生負荷量については第 1 次～第 6 次総量規制開始年度の値を、水質については各総量規制期間中の平均水質を用いた(りんについては、第 5 次総量規制より規制項目に追加)。  
 注 2) 湾灘別の発生負荷量については、養殖系の値を除く値とした。

図 6-6(2) 水域面積あたりの発生負荷量とりん濃度の推移(瀬戸内海・湾灘別)

### 3. 水質現状分析の季節変動について

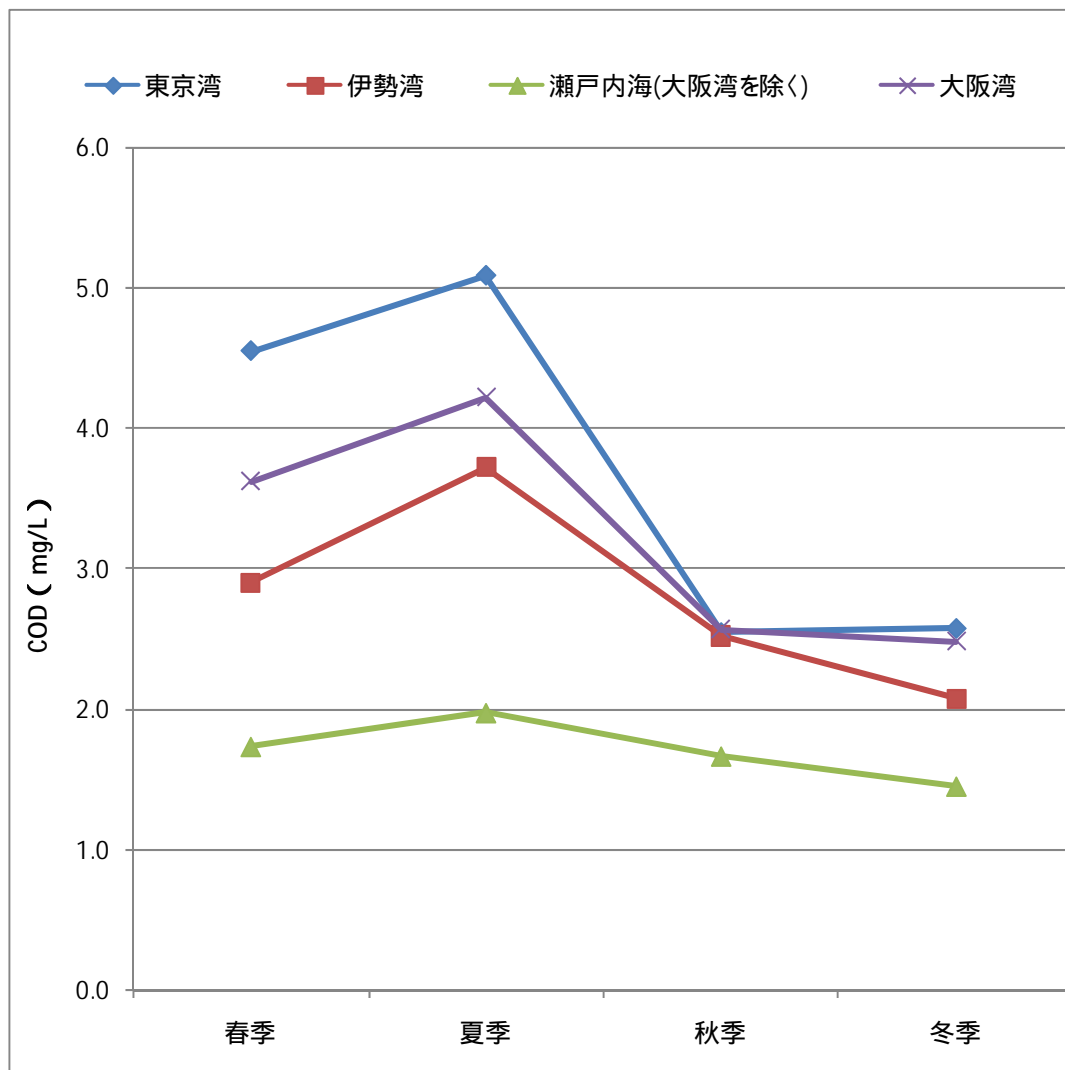
指定水域における海域別水質濃度の季節変動について、全期間平均値だけでなく、5年ごとに区切った場合の推移を示す。

#### (1) COD

##### ア. 季節変動（第2回専門委員会資料の再掲）

海域別のCOD濃度レベルは、東京湾が最も高く、次いで大阪湾、伊勢湾、瀬戸内海（大阪湾を除く）の順となっている。

昭和56年（1981年）度から平成20年（2008年）度までのCOD濃度の季別平均の変動を見ると、各水域とも概ね夏季に高く、冬季に低い傾向を示している（図2-1）。

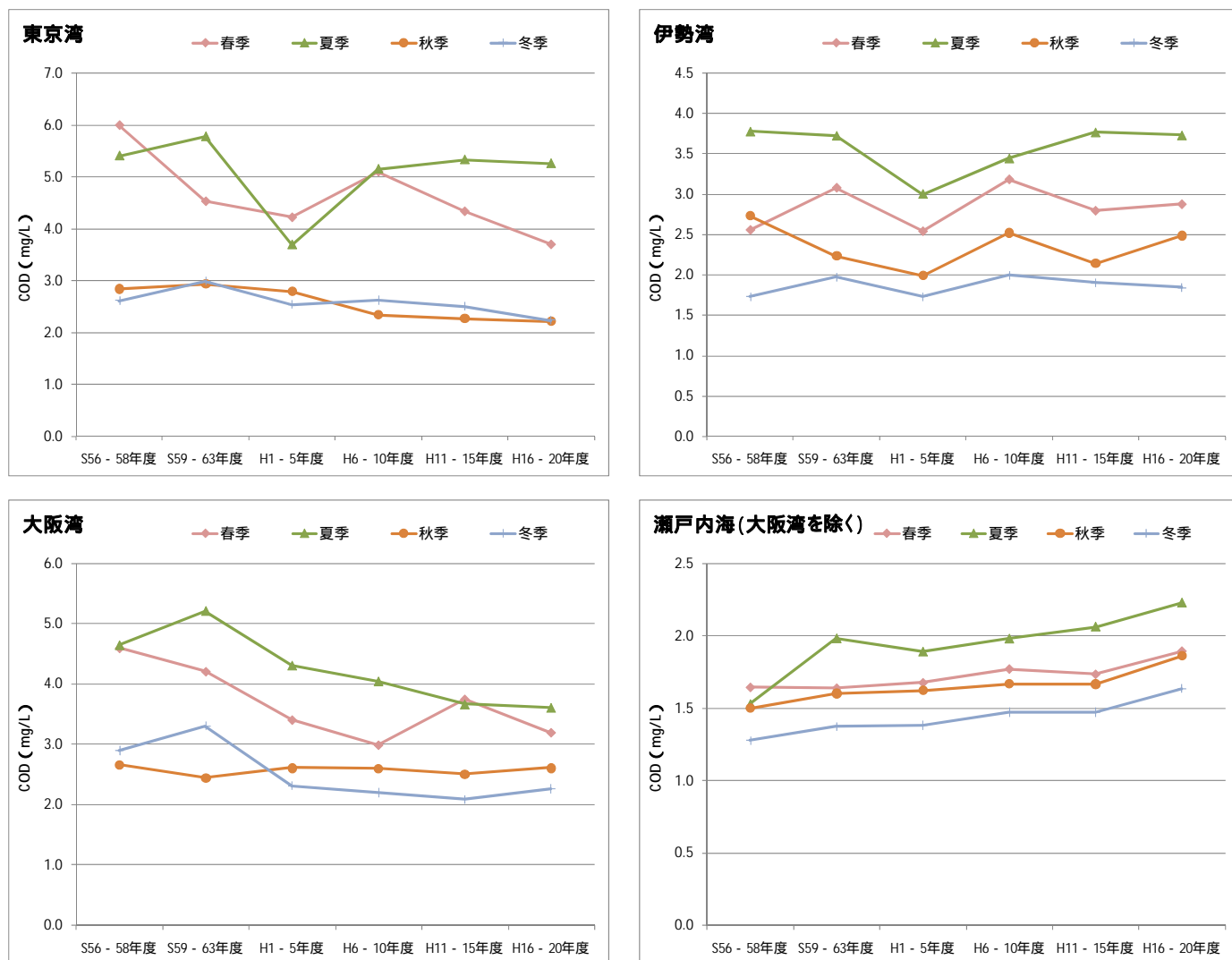


出典) 広域総合水質調査(環境省)

図 2-1 海域別のCOD濃度の季節変動

## イ．季節別平均値の経年変化

昭和 56 年（1981 年）度から平成 20 年（2008 年）度までの C O D 濃度の季節別推移を見ると、東京湾については各季とも低下傾向が見られ、特に春季の低下傾向が大きい。伊勢湾はほぼ横ばいで推移している。大阪湾については秋季を除き低下傾向が見られ、秋季はほぼ横ばいで推移している。瀬戸内海（大阪湾を除く）については各季ともに上昇傾向が見られる（図 2-2）。



出典) 広域総合水質調査 (環境省)

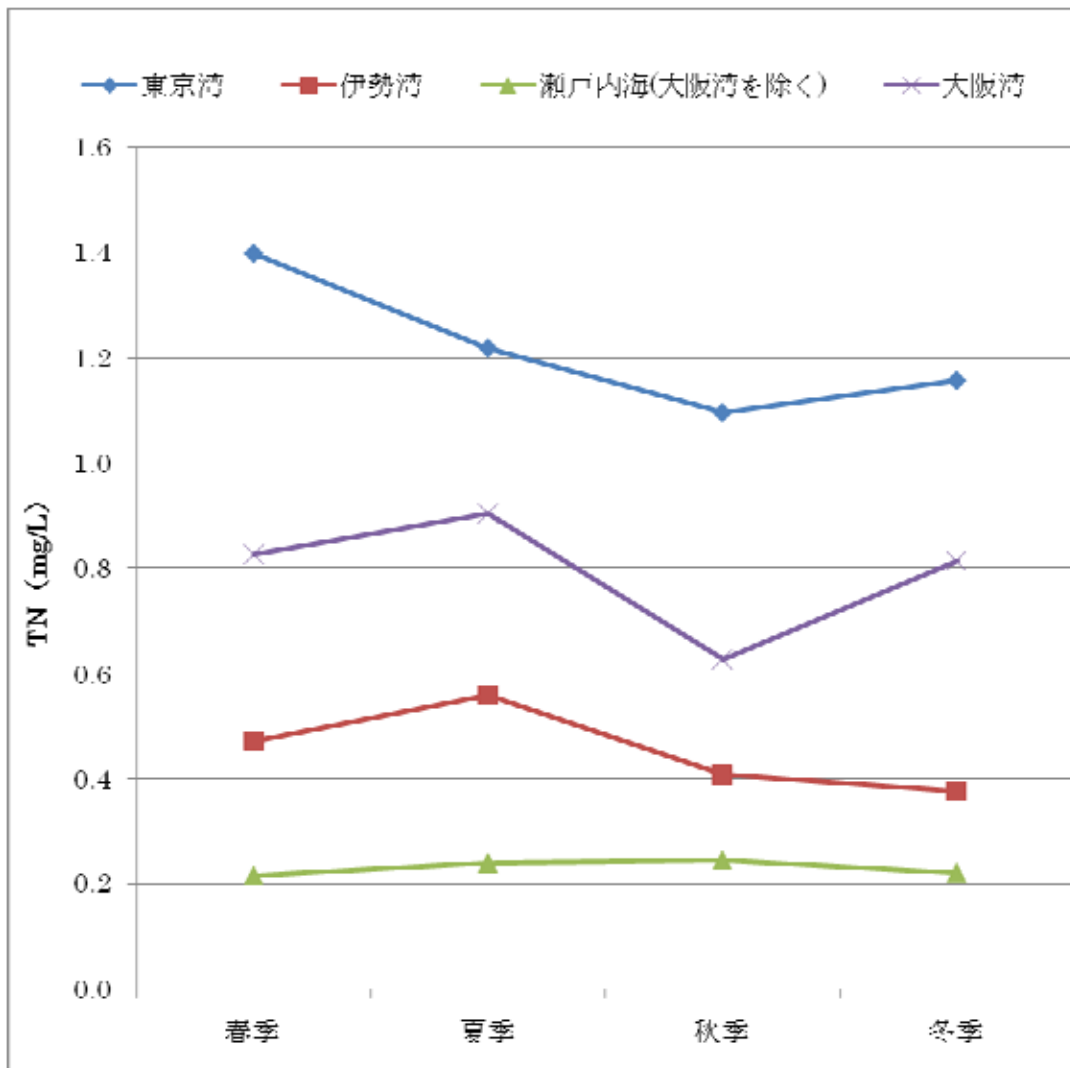
図 2-2 海域別の C O D 濃度の季節別推移

## (2) 窒素

### ア．季節変動（第2回専門委員会資料の再掲）

海域別の窒素濃度レベルは、東京湾が最も高く、次いで大阪湾、伊勢湾、瀬戸内海（大阪湾を除く）の順となっている。

昭和56年（1981年）度から平成20年（2008年）度までの窒素濃度の季節平均の変動を見ると、伊勢湾（三河湾を除く）、大阪湾については夏季に高くなる傾向が見られ、東京湾については春季に高くなる傾向が見られる。瀬戸内海（大阪湾を除く）については、季節的な変動はあまり見られない（図2-3）。

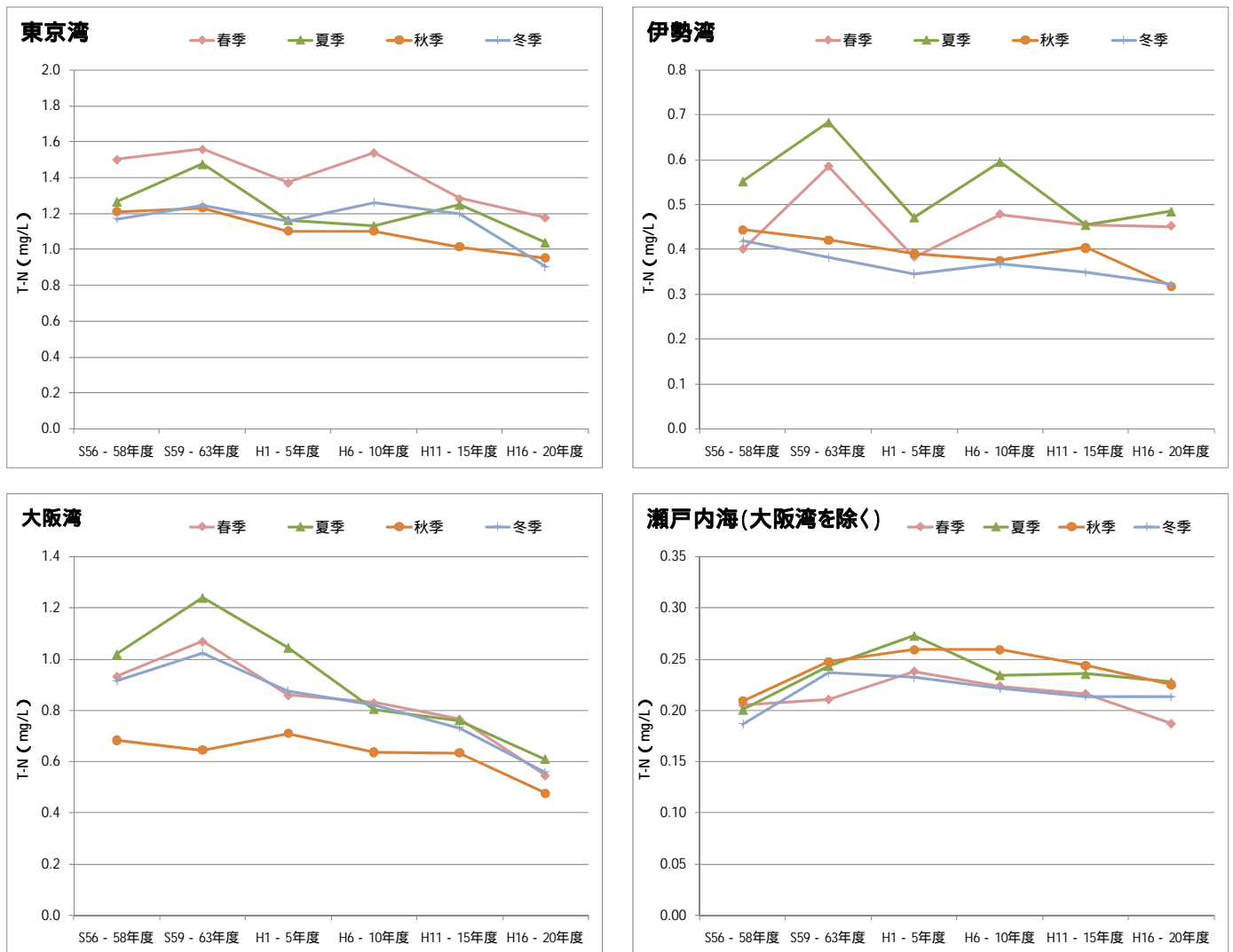


出典) 広域総合水質調査(環境省)

図2-3 海域別の窒素濃度の季節変動

## イ．季節別平均値の経年変化

昭和 56 年（1981 年）度から平成 20 年（2008 年）度までの窒素濃度の季節別推移を見ると、東京湾、大阪湾については各季ともに低下傾向が見られ、伊勢湾についても春季を除き低下傾向が見られる。伊勢湾の春季、瀬戸内海(大阪湾を除く)の各季についてはほぼ横ばいで推移している(図 2-4)。



出典) 広域総合水質調査 (環境省)

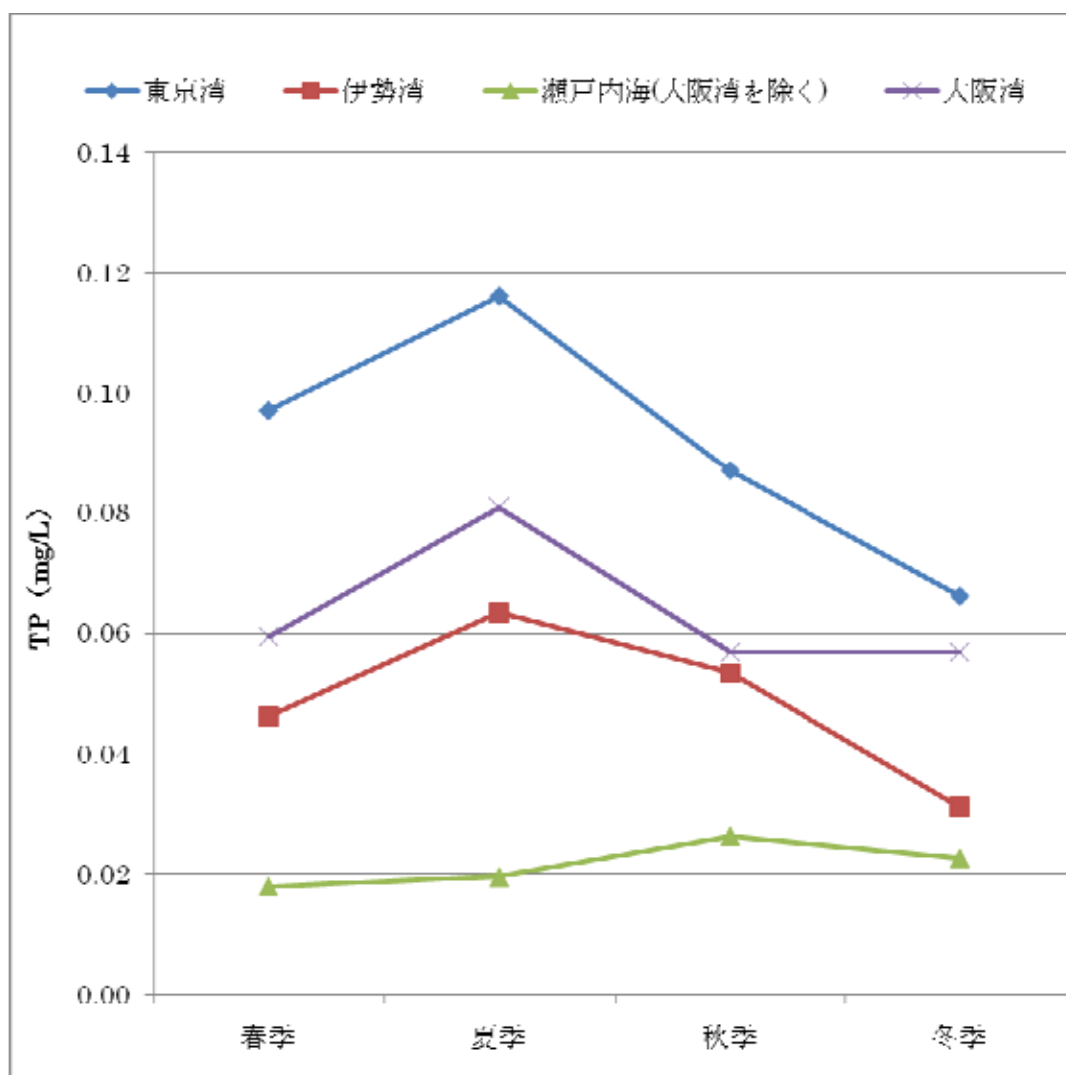
図 2-4 海域別の窒素濃度の季節別推移

### (3)りん

#### ア．季節変動（第2回専門委員会資料の再掲）

海域別のりん濃度レベルは、東京湾が最も高く、次いで大阪湾、伊勢湾、瀬戸内海（大阪湾を除く）の順となっている。

昭和56年（1981年）度から平成20年（2008年）度までのりん濃度の季節平均の変動を見ると、東京湾、伊勢湾、大阪湾については夏季に高くなる傾向が見られ、瀬戸内海（大阪湾を除く）については秋季に高くなる傾向が見られる（図2-5）。

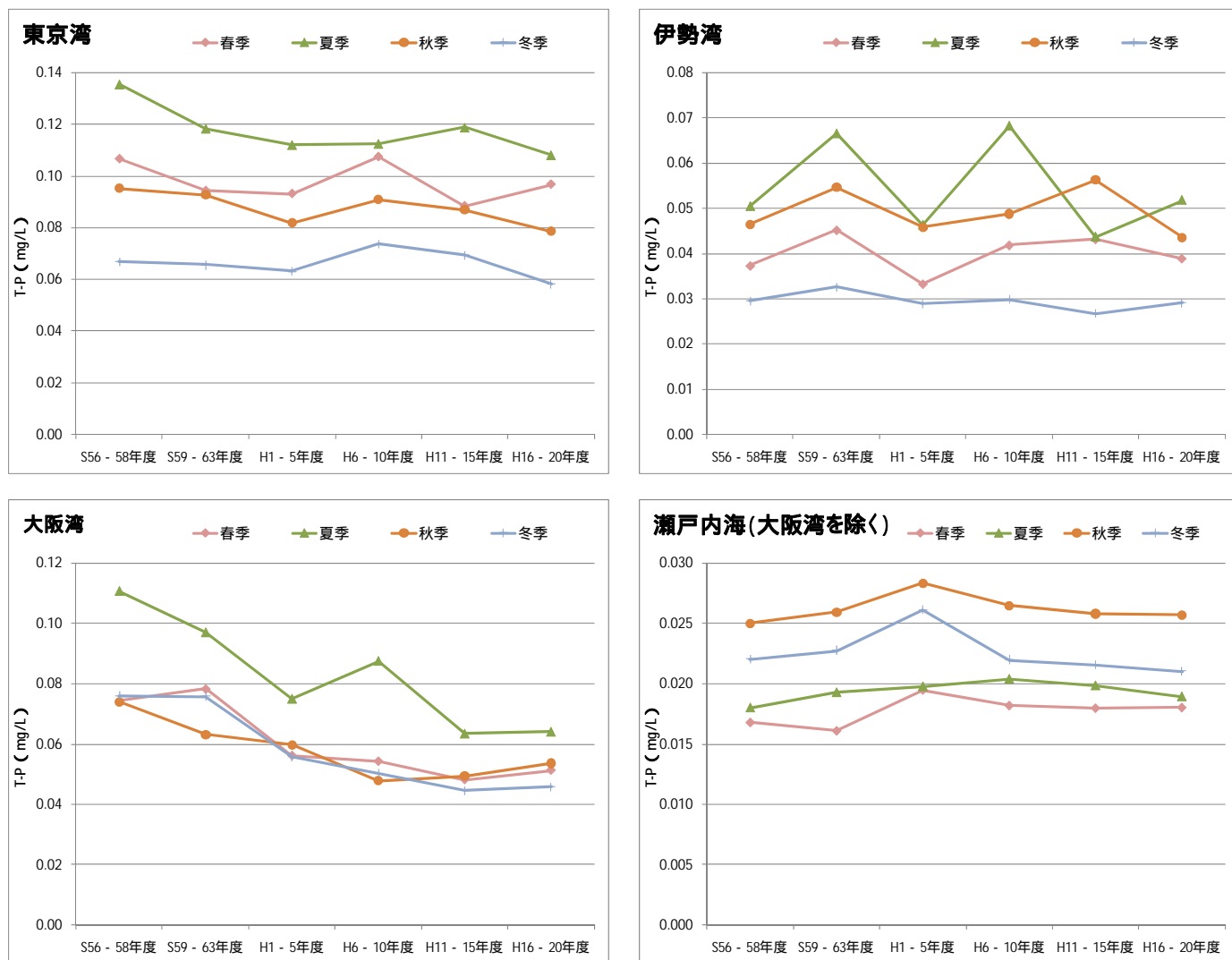


出典) 広域総合水質調査(環境省)

図2-5 海域別のりん濃度の季節変動

## イ．季節別平均値の経年変化

昭和 56 年（1981 年）度から平成 20 年（2008 年）度までのりん濃度の季節別推移を見ると、東京湾、大阪湾については各季とも低下傾向が見られる。伊勢湾、瀬戸内海（大阪湾を除く）については各季ともほぼ横ばいで推移している（図 2-6）。



出典) 広域総合水質調査 (環境省)

図 2-6 海域別のりん濃度の季節別推移